

第12期Bコース（カナダ・オンタリオ州）帰国レポート

令和6年8月26日（月）に日本を発ち、カナダのオンタリオ州で留学生生活を始めた第12期Bコース研修生18人が、約10か月間の留学生生活を終え、令和7年6月29日（日）、日本に帰国しました。

令和7年6月26日（木）、研修生たちは、それぞれお世話になったホストファミリーのもとを離れ、帰国前に実施される特別プログラムの会場であるトロント大学に集合しました。

到着後、研修生は、複数の学部・カレッジ、研究施設、学生寮等から構成される広大なトロント大学のキャンパス内に入り、大学全体が一体となって教育・研究活動を行っている環境に触れながら、特別プログラムに臨みました。

□ 特別プログラム 第1日

帰国前の2日間にわたる特別プログラムでは、留学期間中の生活や学びを整理するとともに、グループでの協働活動に取り組みました。

初日は、自己紹介の後、アイスブレイクやチームビルディング活動を行い、限られた条件の中で意見を出し合いながら課題解決を図る活動に取り組みました。続いて、付箋を用いて留学生生活を振り返り、各自の経験や考えをグループ内で共有した後、全体で整理しました。

また、留学前に設定した目標を基に「自分への手紙」を作成し、留学開始時点と現在の状況を整理しながら、今後の課題や目標について考える時間を設けました。

<食事中の様子>



<特別プログラムの様子①>



<特別プログラムの様子②>



<特別プログラムの様子③>



□ 特別プログラム 第2日

翌日の特別プログラムでは、トロント大学で学ぶ3人の学生を講師として迎え、大学での学修の進め方、専攻分野の選択、研究活動と日常の学修との関係、課外活動との両立などについて話を聞きました。研修生は、事前に準備した質問を基に、質疑応答を行い、高度な専門分野を扱う大学での学びやそのキャリア形成について理解を深めました

その後、大学構内のキャンパスツアーを実施し、講義棟、研究施設、図書館、学生支援施設などを見学しました。複数の学部やカレッジ、研究機関が同一キャンパス内に集積し、教育と研究が密接に結び付いている様子を、実際に歩きながら確認しました。

昼食後には、大学構内の書店を訪問し、専門書や学術書、学生向けの学修資料等に触れる機会を設けました。

プログラムの後半には、研修生一人一人が、留学生生活を振り返り、「チャレンジしたこと (Challenges)」と「これからも大切にしたいこと (Takeaways)」をテーマに、英語でプレゼンテーションを行いました。大学という学術的環境の中で、これまでの経験を整理し、自身の考えを言語化して発表する活動となりました。

<トロント大学の学生との交流の様子>



<キャンパスツアーの様子①>



<キャンパスツアーの様子② (図書館訪問) >



<プレゼンテーションの様子>



同日夜には、現地手配機関が作成した、今までの留学生生活を振り返るスライドショーを鑑賞し、写真や映像を通して留学期間中の学校生活や地域での活動を振り返りました。その後、翌日の帰国に向けて荷物整理を行いました。

令和7年6月28日（土）、研修生は学生寮を出発し、専用車にてトロント・ピアソン国際空港へ向かいました。同月29日（日）、約13時間の飛行機での移動を経て、全員が成田空港に無事に到着しました。

到着後に実施した解団式では、東京都教職員研修センターの職員から、留学期間のまとめとともに、今後の学校生活や進路を見据えた説明がありました。

研修生は、カナダ・オンタリオ州での留学生生活を終え、それぞれ次の段階へと進んでいます。トロント大学という高度な学術環境の中で実施した特別プログラムは、留学全体を整理し、学びを言語化する機会として位置付けられました。

<カナダ・オンタリオ州に留学した第12期Bコース研修生たち>

